



## 心を寄せる(6)



ウクライナとロシアの戦争、イスラエルとハマスの戦争、それ以外にも、地球上ではたくさんの紛争地があります。そこでは、多くの人々が亡くなったり、怪我をしたり、つらい思いをしておられる方がたくさんおられます。本当に早く終わってほしいものです。

ここで、「国境なき医師団」の広報誌に載っていた国境なき医師団 外科医 村上大樹さんのメッセージを紹介します。

東アフリカのブルンジは、政治的混乱が続いていて、私たちの病院の付近でも武力衝突が絶えませんでした。そこへある日、中学生くらいの男の子が一人でやってきました。見ると、左腕の肘から先が骨だけになっています。

男の子の名前はガエルくんと言います。彼はどうしてこんな大けがを？お父さんやお母さんは？

事の真相はこうでした。

ガエルくんたちの村は、ある日突然、武装勢力に襲われたのです。お父さんとお母さんは殺され、ガエルくんはただ一人ジャングルに逃げ込みました。「見つかったら殺される」ガエルくんは息を殺して、何日も身を潜めていたそうです。あまりの恐怖のために指を噛んでいたから、そこから細菌に感染して、あろうことか指が腐ってしまったのです。

あの病院に行けば、誰でも診てもらえる。以前誰かから聞いた記憶を頼りに、彼は私たちの病院まで一人でやってきました。よく生きてたどり着いたと思います。でも、そのままでは腕全体が腐って、死んでしまう。

ガエルくんと話し合った末に、やむなく腕の切断手術に踏み切りました。彼は左腕を失うことになりましたが、命は助かりました。義手を作ってリハビリも行き、1カ月後、退院することができました。

後文で、次のような言葉が記載されていました。

「皆様の周りにも、ガエルくんくらいの年齢の子どもがいらっしゃるのではないのでしょうか。日本の子どもたちと同じごく普通の子どもです。たまたま紛争地に、あるいは貧困にあえぐ厳しい状況に生まれたために、こんなにも悲惨な目に遭っているのです・・・」と。このように大変な紛争地で自分の命を顧みず支援を行っておられる村上先生のような人がたくさんおられます。同じ日本人として心から誇りに思います。

紛争地では、日本には考えられないような出来事が日々起きています。多くの人々が命を亡くしたり、悲しみ苦しんでおられるのです。それは大人だけでなく、子どもたちも同じです。人間同士が、憎しみ合い、殺しあうという行為に人間の愚かさを感じ、腹立たしさを感じます。みなさんも同じ思いをもたれることでしょう。

ガエルくんは、本当に不幸な経験をしました。ガエルくんの今後の健康と幸せを祈るとともに、日本の子どもたちだけでなく、世界中の子どもたちが幸せに生きていける世界にするよう、私たち大人に何ができるのか考えていかななくてはなりません。

平和な世の中とはどのような世の中なのか、どうすれば平和な世の中を作れるのか子どもと一緒に考えてみませんか。